

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	現代文	単位数	4	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	第一学習社 高等学校 改訂版新編現代文				
副教材等	テスト式 国語常識の総演習〈修訂二版〉				

2 学習目標

・基礎的な語彙, 漢字, 表現技巧を学び自由に活用できる力を養う。 ・さまざまなジャンルの文章に触れ, 読み味わうことで語彙力, 読解力を身につける。また読書をする喜びを体験し, 視野や思考の幅をひろげ, 自らの考えを深める。 ・自分の考えと意見を表現できる語彙と表現力を身に付け自己アピール, コミュニケーション能力を高める。
--

3 学習方法

① 教科書を繰り返し音読する。 ② プリントを用いて漢字の練習を行う。 ③ ワークシートを利用し読解を深める。 ④ 作者の他の作品を読み味わい読書の幅を広げる ⑤ 副教材を利用して, 一般常識や表現力を養成する

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション 自己を見つめる 『自分を知ることがいちばんおもしろい』	・1年間の学習計画を理解する。 ・「自己とは何か」という問いを通して、他者や世界といかにつきあうかを考える。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシート及びノートの提出。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
		国語常識の総演習第1回A・B	・副教材の問題演習。	・副教材の提出。
	5	小説を読む (一) 『雨傘』	・小説を読むことが、生徒自身の体験と密接に結びつくものと気付く。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字・語彙が理解, 習得できたか。 ・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
		国語常識の総演習第1回C・D	・副教材の問題演習。	・副教材の提出。
	6	身近な発見 『わざわざ書く』	・身近にあるもの・ことを例に用いた文章を読み、エッセイを読む楽しさを知る。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシート及びノートの提出。
	7	言葉と思索 『我らが内なる「虫」』	・文章の流れを正確にとらえさせ、具体的な事柄から抽象的な内容への移行を把握する。	・辞書等を用いて, 正しく表現できたか。
		国語常識の総演習第2回A・B・C・D	・副教材の問題演習。	・副教材の提出。
	9	人生の風景 『出島のチューリップ』	・文章を読み、今までの人生の中で心に残った「風景」を考え、説明する。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント, ワークシート及びノート提出。 ・辞書等を用いて, 正しく表現

第 2 学 期	10	国語常識の総演習第3回A ・ B	・ 副教材の問題演習。	できたか。 ・ 副教材の提出。
		創作の楽しみ 『短歌と俳句』	・ 近現代短歌・俳句に親しみ、 情景や心情を把握し、より 深く味わう鑑賞のしかたを 身につける。	・ 短歌・俳句を味わうことが できたか ・ 意欲的に作業に取り組むこ とができたか。
	11	国語常識の総演習第3回C ・ D	・ 副教材の問題演習。	・ 副教材の提出
		現代と世界 『ステレオタイプの危険性』	・ 文章の構成を把握し、抽象 的な事柄に対する理解を深 める。	・ 文章の構成、内容の理解がな されたか。また語彙を理解す ることができたか。
	12	国語常識の総演習第4回A ・ B	・ 副教材の問題演習。	・ ノート提出。 ・ 副教材の提出。
		小説を読む（二） 『ナイン』	・ 人物の言動から性格・心理 などについて、的確に把握 する。	・ 内容を理解することができた か。
第 3 学 期	1	国語常識の総演習第4回C ・ D	・ 副教材の問題演習。	・ ノート提出 ・ 副教材の提出。
		小説を読む（六） 『山月記』	・ すぐれた短編小説の持つ、 緊密な構成を理解し、鑑賞 のしかたを学ぶ。	・ 文章の構成、内容の理解がな されたか。また語彙を理解す ることができたか。
	2	国語常識の総演習第5回A ・ B	・ 副教材の問題演習。	・ ノート提出。 ・ 副教材の提出。
期	3			

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は三つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 授業・教材に対する「関心・意欲・態度」	教科書・ノートをきちんと用意し、ワークシート、漢字練習等のプリントを提出したか。
2 読解力・表現力	内容を理解し、それを文章によって表現できたか。
3 漢字力・語彙力	漢字テストで合格できたか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

学習状況の観察・提出物・ノート・定期考査によって評価します。

平成24年度 音楽Ⅲの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	音楽Ⅲ	単位数	2	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	改訂新版 高校生の音楽3				

2 学習目標

◎ 音楽の諸活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。〔要するに，音楽的な能力（楽器の演奏とか歌を歌うこととか音楽を聴くこととか）を高め，音楽好きな生徒を育てましょう！ということです。〕

3 学習方法

① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く，積極的に音楽に取り組む，課題をきちんと提出する，これらのことを着実にこなせば，どんどん音楽の力はつきます。 中学時代に音楽の授業が苦手，もしくは嫌いだった人もいます。歌が苦手，笛が苦手，音符読めないから嫌い…安心してください。本校の芸術の授業は音楽のみですので，様々な種類の音楽を行います。歌，リコーダー，鑑賞，楽典（音楽のルール）全てを初歩から行いますので，実技系が苦手な人は筆記系（楽典，鑑賞）を頑張れば大丈夫です。 初めからあきらめずに意欲的に取り組みましょう。 ② 音楽Ⅰ，Ⅱよりも細かく楽譜についての勉強をします。基本から丁寧にやりますので一つ一つ理解していきましょう。 ③ アルトリコーダーを使用しますので，必ず用意してください。 ④ 必要に応じて，実技テストと筆記テストを行います。実技テストは授業の中で，筆記テストは定期考査期間中に行います。実技テストが苦手な人は筆記テストを頑張る，筆記テストが苦手な人は実技テストを頑張る，両方苦手な人は，両方頑張るというようにすれば大丈夫です。
--

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	歌唱 楽典	- みんなで歌おう 「地上の星」 「川の流れるように」 - 歌曲の世界 日本の歌 ドイツリート イタリア歌曲 - 音階、音程、調性、リズム 楽譜の仕組みを、プリントを使い詳しく勉強します。	- それぞれの楽曲の情景を思い浮かべながら表現（歌唱）できたか。 - 友人たちと合わせて歌うことができたか。 - 各国の音楽の特徴、言葉の響きを理解し、歌うことができたか。 - 楽譜の仕組みを理解することができたか。プリント評価。
第2学期	器楽アンサンブル	- ボディー・パーカッション グループを作りリズム打ちを楽しみます。 - リコーダー	- リズムを上手く取ることができたか。 - グループで協力し合わせることができたか。 - 指使いを覚えて演奏することが

期	鑑賞	・オペラ、オペレッタ	できたか。 ・楽譜を理解し、演奏することができたか。 ・オペラやオペレッタについて理解を深め、鑑賞の結果、その音楽的印象を文章で表現し、共有できたか。
第3学期	鑑賞（日本の伝統音楽） 器楽（合奏）	・三味線について 人形浄瑠璃 ・ギターやリコーダーを使い、 グループで合奏します。	・日本の伝統音楽について、理解することができたか。 ・鑑賞した結果、その印象を自分の言葉で表現することができたか。 ・自分の役割を認識し、友人たちと表現を「合わせる」ことを楽しみ、主体的にアンサンブルできたか。

5 学習評価

音楽の成績を評価するときに、最も重視されるのは日々の授業に取り組む姿勢です。

音楽は体育同様「実技教科」です。日々の授業で身に付けた力を試すためにテストをします。（笛の練習を普段の授業で一生懸命やらなかったら、笛のテストで良い結果は残らないですね）

例えば、普段の授業で一生懸命苦手な笛の練習をしているけど、やっぱり笛は昔から苦手で、テストでは上手にできなかった、という人は、ちゃんと日々の努力を評価します。笛は得意だから普段の授業はサボっててもテストでは上手にできる、という人も、ちゃんと日々の努力を評価して、成績は悪くつきません。筆記関係も同じです。

もちろん、私語をしていたり、出歩いたり等の授業のルールを守れない人は、話になりません。評価の対象外（要するに1）になります。

平成24年度 日本史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書等

科 目 名	日本史B	単位数	4	履修学年・区分	第3学年（選択）
使用教科書	『新選日本史』（東京書籍）				
副教材等	『新詳日本史』（浜島書店）				

2 学習目標

わが国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し，わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって，歴史的思考力を培い，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養い，真の国際化に対応できることを目標とします。

3 学習方法

（１）常日頃から，社会事象（時事問題，世界の情勢）に興味・関心を持ち，新聞や雑誌などに目を通す習慣を身につけましょう。また，テレビやラジオのニュースなども視聴し，わからない言葉や地名が出てきたら，事典や地図帳で確認することが大切です。

（２）「地理」「歴史」とともに必要最小限のことは暗記することが大切です。しかし，やみ雲に暗記できるわけではありません。「何故このようなことが起こったのか。」，「何故このような産業が盛んなのか。」，「何故このような問題が生じたのか。」常にその背景について考え，理解を深めながら整理して覚えましょう。ＴＶの紀行番組，歴史番組や特集番組も大変役立ちます。また，歴史的な事象に対する興味・関心をさらに深め，発展的な学習に取り組むには，歴史に関する解説書や小説などを読んだり，博物館や郷土資料館などに行って実物を見ることもいいでしょう。

（３）読書の習慣を身につけましょう。ゲームやファッションなどの娯楽に流され，活字離れの社会風潮がありますが，若い時代，感受性の高いときに読んだ本は生きた知識・教養になります。

（４）授業では必ず，資料集や地図帳など副教材を用意すること。授業は教科書，プリント副教材等を使用して進めます。教科書の授業範囲をよく読んで，基本的事項を理解し，わからないところや疑問点を整理して授業に臨みましょう。板書事項以外でも大切なことはメモをとりましょう。受身の学習ではなく，自ら学ぶ学習を心掛けよう。自分から求めた知識は生きた知識になります。また，復習の際は，授業内容を確認し，基礎的な内容の問題集に取り組んでみましょう。学習内容のまとめ毎に，確認テストを行います。

（５）重要な事項や地名・人物名は何度も書くことによって覚えましょう。自分流のサブノートを作って整理すると，理解が深まります。問題集を活用し，単元ごとに問題を解き，実践を積み重ねればより効果的です。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション 第1章 古代国家の形成と古代文化	授業の進め方等について説明する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト①を行う。
	5	① 原始社会の生活と文化 ② 農耕社会の形成と大陸文化の摂取 ③ 律令国家の形成と古代文化の展開 ④ 貴族政治と国風文化の発達	原始共同社会から農耕を通し階級・身分制度が成立する過程を学ぶ。 律令体制に基づく古代社会の枠組みを学ぶ。	
	6	1学期中間検査 範囲： p 5. ～ p 6 2.		

	7	第2章 武家社会の形成と中世文化 ① 武家社会の形成と文化の新気運 ② 下剋上の社会と庶民文化の萌芽 1学期末考査 範囲： p 63. ～ p 102.	院政以降，貴族政権から武家政権に転換する背景を探る。 室町文化の性格と戦国時代の実情を理解する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト②を行う。
第2学期	8 9	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展開 ① ヨーロッパ文化の接触と国内統一 ② 幕藩体制の成立 ③ 近世社会の発達と町人文化 ④ 近世社会の動揺と庶民文化の発達 2学期中間考査 範囲： p 103. ～ p 156.	鉄砲とキリスト教が，信長→秀吉の統一事業に与えた影響を知る。 江戸幕府成立の過程を学ぶ。 幕政の安定と経済・社会の仕組みについて理解する。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト③を行う。
	10 11 12	第4章 近代国家の形成と国民文化の発展 ① 開国から明治維新へ ② 立憲政治の形成と国民文化 ③ 日本の近代化東アジア④ デモクラシーと市民文化 ⑤ 激動する世界と日本 2学期末考査 範囲： p 157. ～ p 238.	幕末から明治へと激動の時代を学び，近代国家形成の課程を学ぶ。 民主主義の形成，国民文化の発展を学ぶ。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・確認テスト②を行う。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト④を行う。
第3学期	1	第5章 現代の世界と日本 ① 占領と国内改革 ② 国際社会への復帰と高度経済成長 ③ 石油危機と低成長の時代 ④ 新しい国際秩序と日本の課題 学年末考査 範囲： p 239. ～ p 289.	戦後の日本の復興から発展そして現代へどのように推移してきたかを学ぶ。	・授業を聞き，内容を板書する。ノートを提出させ，授業への取り組みを確認する。 ・図表等で確認をする。プリントで授業内容の理解度を確認し，評価する。 ・確認テスト⑤を行う。 ・3年次の学習を終えた時点で，学習の成果を生かして，生徒が設定する課題による追究学習を実施し，レポートにまとめ提出する。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき，学習内容のまとまりごとに評価を行い，学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価規準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	原始・古代から現代に至るまでの我が国の歴史の変遷を学習する。その際に政治の流れや経済の発展過程を学ぶだけでなく、文化の特徴や歴史上の人物についても学習する。近現代の歴史では、世界史的視野に立って各国との関連も考えさせる授業を展開し、近現代史を中心とする自国の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
2 思考・判断	自国の歴史から課題を見だし、世界史的視野に立って各国との関連も考えさせ、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
3 技能・表現	自国の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。
4 知識・理解	自国を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を世界史的視野に立って各国との関連も考えながら理解し、その知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観 点 1	観 点 2	観 点 3	観 点 4	備 考
学習状況の観察	◎	—	—	○	自己評価の実施。
単元確認テスト	—	○	◎	◎	単元終了後に実施。
課題追究レポート	○	◎	○	○	学年末に提出。
提出物	○	—	○	○	学習の取り組み状況の確認。
定期考査	○	◎	◎	◎	定期考査年 5 回実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成24年度 オーラル・コミュニケーションⅠのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	OCI	単位数	3	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	REVISED Sailing Oral Communication I				
副教材等					

2 学習目標

今までに学習した単語や文法をもとに、「話す」英語を学習します。さまざまな場面で自分の意思を英語で伝えることができるようになることが目標です。

3 学習方法

英語を話せるようになるためには、難しい単語や文法は必要ありません。その場面に必要な単語と表現を覚えることが大切です。そのためにはOCIの教科書に出てくる単語や表現を、何度も繰り返し声に出し、覚えるまで練習します。

4 学習計画

学期	学習内容 (单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Warm up 1	・自己紹介の会話表現	・自己紹介の方法を学ぶことができたか
	Warm up 2	・他者紹介の会話表現	・他者紹介の方法を学ぶことができたか。
	L1 What Day Is Convenient for You?	・予定を述べる会話表現	・自分の予定を話したり、相手の予定を聞く方法を学ぶことができたか。
	L2 How Was Last Sunday?	・週末の出来事について述べる会話表現	・過去の出来事について、質問をしたり答える方法を学ぶことができたか。
第2学期	L3 Could I Have an Extra Blanket? 飛行機内	・飛行機内での会話表現	・飛行機の中で自分の要求を依頼する表現を覚えることができたか。
	L4 Who's Calling Please?	・電話における会話表現	・電話での応答表現を学ぶことができたか。
	L5 How Can I Get There?	・道案内における会話表現	・人に道を聞く時、聞かれた時の答え方を学ぶことができたか。
	L6 May I Help you?	・買い物における会話表現	・買い物をするための表現を学ぶことができたか。
第3学期	L7 You Look Nice in That Dress!	・パーティにおける会話表現	・相手を褒めるとき、褒められたときの表現方法を学ぶことができたか。
	L8 I'm Not Feeling Well	・体調について述べる会話表現	・体の名称や症状の表現を使って、自分の体調を表現する方法を学ぶ。
	L9 I Want to Be a Diplomat	・将来について述べる会話表現	・未来について述べる表現を学ぶことができたか。

5 学習評価

評価の仕方は英語Ⅰ・Ⅱとまったく同様です。OCIでも、最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、以下の項目を成績評価をする際の重要な資料とします。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動に積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物 きちんと仕上げて、期日までに提出できているか。

◎要するに、「テストの得点＋普段の努力」が大切ということです。

平成 24 年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体育	単位数	3	履修学年・区分	第3学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を実践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。
--

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。
--

4 学習内容, 学習活動, ねらい及び評価のポイント

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	集団行動 体力づくり運動 ⑨フットサル ⑩ソフトバレー 水泳	①姿勢②方向変換③集合、整とん、番号、解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・ 体ほぐしの運動 ・ 体力を高める運動 ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・ 基本動作（姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減）ができたか。 ・ 持久性、スピード、筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・ 自己の目標を設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。 ・ より長く、より速く泳げるように、自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第2学期	選択 ⑨サッカー、バスケット ⑩ソフトボール、バレーボール ⑪柔道 ⑫ダンス 選択 ⑨サッカー、ソフトボール ⑩バレーボール、バドミントン	・ 基本技術の習得 ・ ゲーム ⑨柔道①受身②投げ技③固め技④試合 ⑫ダンス①創作ダンス②フォークダンス③現代的なリズムダンス ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム	・ ・ 礼儀作法・技の習得ができたか。 ・ 楽しく踊ったり、発表したりできたか。 ・ パス、キャッチ、ドリブル、シュートができたか。 ・ サービス、パス、レシーブ、スパイクができたか。
第3学期	選択 ⑨ソフトボール、サッカー ⑩バレーボール、バドミントン	・ 基本技術の習得 ・ ゲーム	・ チームで作戦を考え、協力し実践することができたか。

5 学習評価

①「体育」の授業に積極的に参加し、向上心がみられるか。 ②協調性を持って、周囲と楽しく取り組もうとしているか。 ③技能や安全面など、適切な状況判断ができるか。 ④与えられた課題に対して、しっかりと技能を習得することができるか、また習得しようと努力しているか。 ⑤技能・ルール・安全・理論に対する知識理解を深めているか。 ※授業への取り組み＋記録＋目標設定への達成度

平成24年度 ライティングのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	ライティング	単位数	4	履修学年・区分	第3学年 Bコース
使用する教科書	EXCEED English Writing New Edition (三省堂)				
副教材等	英単語集				

2 学習目標

- ◎ みなさんは、中学時代を含めた5年間の英語の勉強を通じて、多くの単語や熟語、文法を学びました。「ライティング」では、それらの知識を活用して、自分が伝えたいことを場面や目的に応じて英語で書けるように勉強します。いろんなことを積極的に英語で表現できるようになりましょう！

3 学習方法

- ◎ 正確に情報や考えを伝えるために必要なことは、①ボキャブラリーが豊かなこと、②文法を正しく身につけていること、③よい文章をたくさん覚えることです。そのために、単語集を用いて多くの単語を覚えたり、文法ベースで構成されている教科書の例文を何回も書いて練習したりします。目・口・手を使ってたくさんのことを暗記するのがライティングの勉強です。

4 学習計画

学期	学習内容(单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Lesson 1～3	・文型(SV・SVC・SVO・SVOO・SVOC)	・正しい文型を用いて表現することができたか。
	Lesson 4	・文の種類(重文・複文)	・重文と複文の仕組みを理解できたか。
	Lesson 5	・進行形	・現在進行形と過去進行形を用いて表現することができたか。
	Lesson 6～8	・完了形	・完了形の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
第2学期	Lesson 9～12	・動名詞 ・to不定詞(名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法) ・原型不定詞	・動名詞を用いて文を書くことができたか。 ・不定詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
	Lesson 13～14	・助動詞	・助動詞それぞれの違いを知り、使い分けながら文を書くことができたか。
	Lesson 15～16	・態(能動態・受動態)	・態の考え方を理解できたか。 ・受動態を用いて表現することができたか。
第3学期	Lesson 17	・分詞(現在分詞・過去分詞)	・分詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。
	Lesson 18～19	・関係代名詞	・関係代名詞の考え方を理解し、それを使って文を書くことができたか。

5 学習評価

評価の仕方は英語Ⅰ・Ⅱとまったく同様です。ライティングでも、最も重視されるのは定期考查の結果です。年に5回実施される定期考查で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、以下の項目を成績評価をする際の重要な資料とします。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物・・・きちんと仕上げて、期日までに提出できているか。

◎英語の授業はいつでも、「テストの得点+普段の努力」が大切です。

	バレーボール, バドミントン		
--	----------------	--	--

5 学習評価

①「体育」の授業に積極的に参加し、向上心がみられるか。 ②協調性を持って、周囲と楽しく取り組もうとしているか。 ③技能や安全面など、適切な状況判断ができるか。 ④与えられた課題に対して、しっかりと技能を習得することができるか、また習得しようと努力しているか。 ⑤技能・ルール・安全・理論に対する知識理解を深めているか。 ※授業への取り組み+記録+目標設定への達成度
--